

## 脳血管障害と釣藤散

○嶋田 豊<sup>1)</sup>、後藤 博三<sup>2)</sup>、引網 宏彰<sup>1)</sup>、横山 浩一<sup>1)</sup>、関矢 信康<sup>1)</sup>、  
寺澤 捷年<sup>3)</sup>

富山医科薬科大学・医学部・和漢診療学講座<sup>1)</sup>、  
富山医科薬科大学・和漢薬研究所・漢方診断学部門<sup>2)</sup>、富山医科薬科大学<sup>3)</sup>

以前我々は、脳血管性痴呆に対する漢方方剤・釣藤散の有効性を、プラセボを用いた二重盲検臨床試験にて明らかにした。これをきっかけとして、脳血管障害に対する釣藤散及びその主要構成生薬である釣藤鈎の薬理作用について、臨床的及び基礎的に検討してきた。今回は、それらの研究成果について報告する。

1. 脳血管性痴呆に対する釣藤散の二重盲検臨床試験では、自覚症状・精神症候・日常生活動作障害の各全般改善度、全般改善度、有用度において、釣藤散はプラセボに比べて有意に優れていた。
2. 無症候性脳梗塞患者を対象とした臨床的検討によって、釣藤散の眼球結膜微小循環改善作用、赤血球集合能・赤血球変形能等の血液レオロジー因子改善作用、血清コレステロール・LDL-コレステロール低下作用、血漿過酸化脂質低下作用が示された。
3. 脳卒中易発症自然発症高血圧ラット(SHR-SP)を用いた *in vivo* の実験では、釣藤散の血圧上昇抑制作用、赤血球変形能改善作用、血管内皮機能保護作用、血漿過酸化脂質低下作用、脳卒中発症抑制及び延命作用等が明らかとなった。
4. オーガンバスを用いた *in vitro* の実験では、釣藤散及びそのフェノール画分、アルカロイド画分の血管弛緩作用及び収縮抑制作用が示された。
5. 培養ラット小脳顆粒細胞を用いた *in vitro* の実験では、釣藤鈎及びそのフェノール成分、アルカロイド成分のグルタミン酸及びNO donor 誘導神経細胞死に対する保護作用が示された。
6. スナネズミ一過性脳虚血モデルを用いた *in vivo* の検討では、釣藤散及び釣藤鈎の海馬CA1領域の錐体細胞死に対する保護作用、脂質過酸化抑制作用、フリーラジカル消去活性増強作用が示された。

以上より、釣藤散は微小循環・血液レオロジー改善作用、血管内皮機能保護作用、神経細胞保護作用等の多面的な作用を有することが明らかとなり、脳血管障害及びその随伴症状の発症・進展の予防に有用な薬剤であることが示された。